

## 支部事業レポート 「シニア世代と生きがいつくり」 ～ 酒井裕司さんと語ろう 講演会&トークセッション～



### 【酒井氏プロフィール】

1975年生まれ。昨年7回目となった飯島町の米俵マラソンの発案者として、また国技大相撲の本場所や場所前の巡業の土俵づくりを一手に引き受ける「㈱未来いいじま」の製造部長として、米作りを通して地域を活性化し、伝統を後世に引き継ごうと日々奮闘中。

大学時代は探検部に所属し、真冬の川下りやロッククライミングに挑戦。2年生の時には自転車でアメリカ大陸縦断 6000kmを、翌年にはインド大陸 1800kmを走破した。その体験の途中で食べたコメの味と、日本へ無事に戻った際に見た田の稲の揺れる様子が忘れられない記憶として、全ての活動の原動力となっている。

11月24日(火) 天候にも恵まれて、本年度の伊那支部の支部活動事業「酒井さんと語ろう・トークセッション」が行われました。

当初、「稲」をキーワードに起業した酒井氏を招いて、広い会場で講演会を通常通りおこなう予定を立てていましたが、コロナ禍の中、改めて再企画しました。

通常の「講演を聴く会」ではなく、少人数を前に短時間の講演後、参加者に質問や意見を自由に出してもらうことで、一緒により深く考えよう、より広く感じよう、という「トークセッション」の企画。いわば、コロナ禍で縮小せざるを得なかった少人数という規模を逆手に取り、講師のお話を肴にした「井戸端会議」といった体裁での講演会です。



参加者は絞らざるを得ませんでしたが、立場の違うそれぞれに深いご経験をお持ちの皆さん9名が参加してくれました。そして各々が、自分の経験やこの講演会で感じたこと、触発されたことを元に、色々な意見、質問をされていました。

「酒井さんの人生のターニングポイントはどこだったのでしょうか？」・「一つは大相撲の土俵の注文が……」  
「虚無僧のかぶる天蓋を、わらで是非作ってほしい！」  
時に笑いあり、時に驚きあり、そして涙(?)あり……。とても濃密で知的な2時間となりました。



なお今回は㈱エコーシティー駒ヶ岳さんの協力を得て、来年ケーブルテレビの番組として放送される予定です。酒井さんの講演内容だけでなく、参加者の発言や思いも、シニアを含む視聴者に知っていただく予定です。

(社会活動推進員 田中 敏彦)